

○中原中学校の歴史 パート 1

ふるさと佐賀、ふるさとみやき町に対し愛着と誇りをもってもらいたいという願いから、前任校では全校集会時の校長講話の時間や学校だよりで、地域や中学校の歴史、校歌、郷土の偉人について話をしてきました。中原中学校でも中原町史や学校アルバム等の史料や写真を使いながら歴代校長先生とその当時の職員、当時の学校の様子について紹介していきたいと思います。今回は、**初代校長古川太七先生**と当時の様子について紹介します。

初代 古川 太七 校長先生は、昭和22年度から24年度までの3年間の本校在職でした。教育基本法及び学校教育法により、昭和22年4月1日に小学校に併設というかたちでスタートし、5月3日に開校式が挙行されました。現在の地に独立校舎が新築され、昭和24年5月に第一期分が落成しました。

写真は、第1回目の卒業生の集合写真です。ちなみに、第1回卒業生は、今年(H31)87歳になれる昭和7年度生まれの方々と、卒業生は、男子7名、女子24名、計31名でした。

中原町史によると、「**新学制実施前は、小学校6年を終わった生徒の約20%が三養基中学などの中等学校に進学し、80%は高等科、青年学校へ進学し、大部分は高等科2年卒業で実社会へ巣立った**」と記載されています。

新制中学第1回生が少ないのは、昭和22年3月に国民学校高等科（修業年限2年）を卒業された方で希望者が新制中学3年生となったからだそうです。それまでの旧制三養基中学(男子校)や鳥栖や神埼等の高等女学校は、昭和23年に新制高校となりました。

初代校長 古川太七先生 S22~24年	
	第1回卒業生(昭和7年生)  男子7名、 女子24名 計31名
	第1期校舎竣工 
出来事 日本国憲法施行 S22.5 中原中学校創立 S22.5.3 (小学校校舎使用) 第一期校舎竣工 S24.5 新校舎生徒収容 S24.10~ 湯川秀樹ノーベル賞受賞	